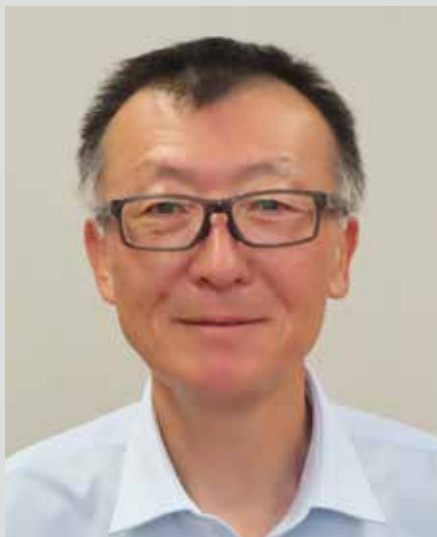


かお・人・interview

2025年8月1日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
熊本営繕事務所 所長

森下 史仁氏

MORISHITA Fumito

熊本県と大分県を所管する熊本営繕事務所。官庁施設は行政サービスの場としてだけでなく、防災拠点の役割や親しみ潤いのあるまちづくりに貢献できる役割を担う。近年、地震や豪雨など自然災害により、甚大な被害を受ける傾向にある。官庁施設については、災害活動の拠点機能を発揮するとともに、避難所としても活用されるなど、その重要性は以前に増して高まっている。森下史仁所長に話を聞いた。

Q所長就任にあたっての抱負

熊本での勤務は6年ぶり4回目ですが、「熊本営繕事務所」での勤務は初めてで、今までは熊本河川国道事務所で熊本県内の直轄土木に付帯する営繕工事を担当していました。

営繕部での勤務は6年目でまだまだ勉強中ですが、立場は変わっても発注者として受注者の皆さまと真剣に向き合うことでより良いものが作れるという点は何ら変わらないと確信しております。古いスタイルに固執することなく、新たな視点で受注者の皆さまの声をよく聞き、真摯に向き合いながら良いものを作ることで利用者の皆さまから喜ばれる施設整備に取り組んでいきたいと思っています。



▲熊本地方合同庁舎(左: B棟2014年度完成、右: A棟2010年度完成)

Q熊本や九州地区との関わりについて

両親は熊本出身ですが、その当時父の勤務先である北海道札幌市で生まれ、その後小学生から大学時代までを熊本で過ごし、卒業後は別の役所で横浜に3年ほど勤務した後九州に帰ってきました。

入省1年目の平成5年に発生した鹿児島で「8・6水害」と言われる災害を経験しました。事務所前の国道3号線が近くの甲突川からの越水で川の様になってしまい、翌日に水が引いた後の惨状が今でも目に焼き付いています。ヘドロ臭の漂う中で被災した車の受け取りの対応や床上浸水した職員宿舍の後片付けや調査等々、事務所一丸で災害復旧に取り組んでいたのが30年以上過ぎた今でも忘れることができません。

平成28年4月から福岡財務支局に出向し、2週間後に熊本地震が発生。福岡へ通勤していたのですが、新幹線の不通で通えなくなり急遽、九州財務局で被災した合同宿舍の復旧支援をひと半月位していました。

Q 当事務所の紹介

■ 工事監理

熊本及び大分県内の所管予算、支出委任及び受託を受けた工事についての工事監理

■ 施設整備についての助言と支援

所掌する熊本県内68施設、大分県内49施設について、改修・建て替え等の助言、予算要求資料作成の支援等。また、所管官庁施設について「官庁建物実態調査」を定期的及び臨時に実施

■ 保全業務

各省各庁の施設管理者53部局が所掌する管内340施設(延べ面積約75万㎡)について、保全指導と助言。また、各県において年1回「地区官庁施設保全連絡会議」を開催し、各施設管理担当者の皆さまへ保全に関する情報提供等

■ 防災業務

災害時に、官庁施設の被災状況等を迅速に把握し、応急対策の助言等
以上の業務を総務課、技術課、保全指導・監督官の総

勢11名で行っております。

Q 事業概要(簡略)について

【所管予算】

(防災・減災対策)

大分港湾合同庁舎:耐震、津波、自家発電設備改修

【支出委任】

(老朽化対策)

別府重度障害者センター:
管理棟、居住棟空調設備
改修

宇城公共職業安定所:便
所改修

大分県警察学校:外壁改
修、防水改修

(環境対策・木材利用)脱
炭素社会の実現に貢献

大分森林管理署:庁舎新
営一木造2階建て延べ面
積529.31㎡



▲土地改良技術事務所(2020年度完成)

Q 災害活動の拠点となる行政施設への取り組み

官庁施設は、来訪者等の安全を確保するとともに、大規模地震発生時に災害応急対策活動の拠点として機能を十分に発揮でき、不測の事態においても業務継続が確実に行われるために必要な整備を行っています。

管内では、大分港湾合同庁舎において大規模地震

▲大分森林管理署(外観パース)





▲熊本警察学校・武道場 (2019年度完成)



▲佐伯税務署 (2022年度完成)

発生時や津波襲来時に防災拠点として機能維持や行政機能の早期回復を図るための改修工事を行っています。

Q 防災・減災を含めた地域との連携

官庁施設に地震や津波に対する性能を持たせることにより、防災拠点としてだけでなく、来訪者等の安全確保や津波避難ビルとして一時的な避難場所の確保、災害発生時には地方公共団体からの要請を受けて緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)を派遣し、被災建築物応急危険度判定、被災した庁舎などの公共建築物等の現地調査や技術的な助言を行っています。

Q 地域建設業界への要望・メッセージ

直轄営繕事業においても、直轄土木同様に「働き方改革・生産性向上」に向け、働き方改革の取り組みをパッケージ化して取り組んでいるところですが、第三次・担い手三法(令和6年改正)等を受けて、令和7年度もより一層の取り組みを拡充させるため、「完全週休二日の確保」、「働き方改革、生産性向上に配慮した仕様書の適用」、「関係者間調整の更なる円滑化に向けた取り組みの確実な推進」、「建設業の働き方改革に考慮した工期の設定」を掲げております。

具体的には、①適正な工期設定・施工時期等の平準化による履行期間の確保②必要経費へのしわ寄せ防止の徹底により「営繕積算方式」による予定価格の適正な設定③生産性向上に向けてICTの積極的な活用として、情報共有システムの活用、建設現場の遠隔臨場、デジタル工事写真の黒板情報電子化等の活用をより一層推進してまいります。

民間主導の建築業界ではありますが、公共建築施設の整備を通して地元建設業界の皆さまと協力しなが

ら、より魅力ある建設業界の発展に寄与したいと思います。

Q 趣味や健康法

趣味は、マウンテンバイクです。息子がレース活動を始めたのをきっかけに自分も乗り始めて、かれこれ15年位になります。息子のレースサポートをする傍ら年に数回は草レースに参加、また、九州内で開催されるマウンテンバイクレースのボランティアスタッフをやっており、現在は自宅から片道15キロ自転車通勤しています。

「座右の銘」というか、今の自分を支えてくれるフレーズがあります。ある方の著書の中で「どんなに難しい問題にあたっても解けない問題は無い。何故ならそれは自分が作った問題だから」という言葉が好きです。どんなに難しい場面にあたっても自分で作ったことだから必ず解決できるという意味合いで、どちらかというとなegティブ指向だった私をポジティブ指向に変えてくれた言葉です。

プロフィール



札幌市出身、58歳。

H 2年 防衛施設庁横浜防衛施設局入庁

H 5年 建設省九州地方建設局入省
(鹿児島国道工事事務所)

H 8年 佐賀国道工事事務所工務課 施設係長

H14年 鹿児島国道工事事務所工務課 施設係長

H17年 熊本河川国道工事事務所工務第二課 専門職

H25年 熊本河川国道工事事務所工務第二課 専門官

H28年 財務省福岡財務支局管財部第三国有財産管理官
国有財産管理官

H30年 熊本河川国道工事事務所工務第二課 課長

R 2年 九州地方整備局営繕部調整課 課長補佐

R 5年 鹿児島営繕事務所 所長

R 7年 現職